

碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
神奈川 碩 会 発行

8年 逗葉大合	5月 地地区計	現在 地区区計	会員数 154名 216名 43名 413名	8年 根編中	5月 岸村	(286号) 行集岳 者者愛
------------	------------	------------	------------------------------------	-----------	----------	----------------------

予定行事

- 碩心会総会
日 時・5月19日(日)10時より
会 場・葉山町福祉文化会館第三会議室
- 碩心会60周年大会準備委員会
日 時・5月19日(日)午後1時より
会 場・葉山町福祉文化会館第三会議室
- 第21回横須賀第二地区吟道大会
日 時・6月9日(日)9時30分より
会 場・鎌倉中央公民館分館
- 県本部総会
日 時・6月16日(日)10時より
会 場・県立横須賀労働福祉センター
- 第4回神奈川地区吟道大会
日 時・6月23日(日)10時より
会 場・綾瀬文化会館
- 碩心会吟道温習会
日 時・6月30日(日)9時30分より
会 場・逗子市立図書館ホール

奥伝認許 (8年4月1日付)

267 三橋香織(華風) 三月号に記載漏れお詫
びします。益々ががんばって下さい。

皆伝認許 (8年5月1日付)

- 117 青木ケサノ(梅岳) 118 金子 訓子(訓岳)
- 119 鈴木 初江(江岳) 121 一柳 良治(良岳)
- 122 真下二三子(心岳) 123 荒木アイ子(佳岳)
- 124 矢島 佳子(佳岳) 125 矢嶋 時子(晃岳)
- 126 高井 道子(道岳) 127 小西 カツ(勝岳)
- 129 小菅 幸枝(幸岳) 130 小池 和子(和岳)
- 131 黒崎 武幸(幸岳) 132 長谷川喜己雄(清岳)
- 133 広瀬 春雄(晴岳) 134 大坪 克子(久岳)
- 135 加藤 芳子(芳岳) 137 鈴木 千工(千岳)
- 138 佐藤由紀子(由岳) 160 小峰八重子(恵岳)
- 247 岡本富美子(瑞岳)

松和支部・武井桃風さん

皆伝追贈「桃岳」認許

碩心会最高齢者95才で、元気に皆伝を目指して頑張っていました。4月19日永眠されました。生前吟道に精進、熱心に研究、錬成態度は、他の模範とするところということで、同日付で総本部より認許されました。どうぞ心安らかに、天上から碩心会を見守って下さい。

合 掌

県本部 吟行旅行費の件

日時・11月9日(出)～11日(月)(二泊三日)
旅行費・五万五千元

三月号にてコースお知らせしました右件の旅行費について、分割払込方法は左記の通りです。(一括払込も可)

申込先・村田岳瀨方 ☎ 七一六〇四七

6月～9月は月一万円宛
10月は一万五千元 計五万五千元

払込・指導者講習日など御利用を。

傾心会 役員会ひらかる

○常任理事会

日時・4月1日(月)(於・六代御前社務所)

議題・会長、副会長会合の報告

○役員会(常任理事、相談役、参事)

日時・4月18日(木)(於・六代御前社務所)

議題・会長辞任による新会長選任の件

任期満了による役員選考の件

○常任理事会

日時・4月29日(祝)(於・六代御前社務所)

議題・任期満了による役員選考の件

その他、総会開催の件、他

支部名の改正

右件につき、常任理事会に於て左記の通り改正されました。

一色A支部を(一色支部)に

桜山A支部を(桜山支部)に

好天に恵まれた傾心皆伝会

4月27日(土)葉山町福祉文化会館二階にて、80余名参加のもと行なわれました。折しも入口の花の木公園斜面の、赤、ピンク、白など、色とりどりのつつじが満開で迎えてくれ、暖かく、天気よしで、和気霽靄のうち、盛会に行なわれました。

「岳」の重みをかみしめて

一色 小菅 幸 岳

「ジンチエイ(人生)50に行こうよ」という3才の子供を連れて教場に行ったのは、今から15年前。その子も今年大学一年生になりました。受験勉強のためにのみ覚えた漢詩も、すっかり頭から消え去ってからの詩吟との出会いです。

先生はじめ、先輩方の熱心な指導と、教場

の家庭的雰囲気は、仕事も家庭もすべて忘れて、吟を楽しませてくれました。どんなに忙しくても「詩吟に行かなくては」と思わせる魅力がありました。

ところで、今回皆伝をいただくことになりました。ちょうど同居していた義祖母(96才)の告別式と重なり、試験を辞退したのですが、先生方のお力添えにより受けることができました。私にとっては、忘れ難い伝位となりました。

「光陰矢のごとし」と云われるように、時はどんどん過ぎ去ってしまいます。しかし、詩吟をしていたからこそ多くの人との出会いがあり、他の趣味も広がってゆきました。吟歴を重ねるごとに、詩吟の奥深さを感じられるようになりました。「岳」の名前を保つのは、自分の努力と精進はもちろんのこと、教場での仲間があつて初めて維持できるものと思っています。年令を感じさせない素敵な先輩方のように、「岳」の名にふさわしい、味わいのある吟ができるよう努力したいと思っています。

先生はじめ、皆様方のご指導をよろしくお願い致します。

乗無蓋車往湘南海岸道路

無蓋車むがいしゃに乗り湘南海岸道路を往く

宇都宮 徳 岳作

朝発草茅間 朝あしたに草茅そうぼうの間りよを發し

向西函嶺廬 西かんれいのかた函嶺いはりの廬いほりに向ふ

相望美嶽頂 相あい望むむ美嶽いだけの頂すそ

又見翠微裾 又また見みる翠微さいびの裾すそ

水上簇帆走 水みづ上うへ帆走はんそう簇むらがり

汀邊網魚漁 汀邊ていへん網魚もうぎよ漁にぎおふ

東風當白首 東風とうふう白首はくしゅに當あたり

爽快若雲車 爽快うんしゃなること雲車うんしゃの若ごとし

(語 釈)

間……村里の門、さと

廬……粗末な家

翠微……山のみどり色のもや、八合目あたり

帆走……ウインドサーフィン

網魚……地曳網

白首……しらが頭

雲車……仙人が乗ったという雲の車

若さの価値

逗子A 川 瀬 弘 岳

「少年老い易く学成り難し

一寸の光陰軽んず可からず」朱熹

「盛年重ねて来らず

一日再び晨なり難し」 陶潜

右の漢詩は、記述するまでもないので、若人に勧める勉学の句として、老壮の人達の聞きなれている名句です。少年期の私はこの詩の中に魂の宿る情念を深くしたものでした。若さとは何であろうか。未だ経験したこともない未知への「チャレンジ」興味と憧れ「フレッシュ」で心に活性がわく情感であろう。よく耳にする会話の中に「今の若い人」、価値観が違ふ、変つてきている、などについて考えてみると、人それぞれの個性、生育の過程、世相、環境によつて異なり、変つているのは当然かもしれない。しかし価値観は、感じ方、見方、とらえ方により、自分自身にたらしめることであり、真の価値の本質は、いささかも変わるものでなく、価値観から価値そのものと見誤らないことが大切だと思つている。

「温故知新」

聞きなれた言葉です。私は大好きです。若いとき、よく年長者、又先輩から処世の話を聞き、叱責され、悩みながらの紆余曲折が今の私であり、古きを温めることは、若い時代の経験を糧として新しいことを知り挑戦し、古い殻を脱して新しい殻をつけ、若さに変容しつづける……と解してもよいと思う。

海老は常に古い殻を脱して生きている限り新しい殻をつけることに、老いても若さに努力しているという。又、海老は祝膳の象徴として欠かせません。若いうちに固まつてしまふと、伸び縮みができず、腰の曲つた若取寄になつてしまいます。海老にあやかり固い殻を脱して、常に「リフレッシュ」「ナウイ」「シンブル」活力ある行動が「若さの価値」であると思う。

私も「一吟」「一句」「一声」ごとに、あらたな気力で「体は老いても心は老いぬ」よう心掛け、若さを保ちたいものだと思います。今や春爛漫、各地とも華やかな桜の花びらに包まれることでしょうか。あらゆる植物も色づき萌ゆる若葉の清新さは「若さの価値」そのものではないでしょうか。

三井先生を憶う

逗子B 新井 国 山

四月のある一日、三井岳龍先生の送別会が、門人、生徒に囲まれて行なわれました。指導を引退されることを惜しむ声がとめどなく聞かれる中で、「声も出し難くなつたし、体調も崩せば、皆さんに迷惑をかける」と、いつもの表情で淡々と話されるのでした。

二階の教場から、階段を一步づつ確かめるように下りられるお姿には、正直お年をみることもありますが、まさに朧々と吟じられるお声には、尚響鑠とした響きを感じます。

師の漢学者のような風貌と、公正でやさしいお人柄は、皆さんの信望も厚く、また指導の合間にかがう漢詩の話には深い造詣があつて、それが楽しみの一つでもありました。

吟じ方は形より表現力にウエイトをかけられ、私も「そこは、こう吟じないと味が出ない…」など、度々注意を受けました。

先生の吟には実に品性があり、これは「内容を吟ずる」と共に、私にとって終生の課題と受けとめております。

先生には健康に留意され、いつまでも美声

に衰えなく、吟道界の指導者でいられることを祈念いたしております。

若葉支部の誇り宮田花風様

若葉 佐々木 邦 風

桃の節句の春期審査会に於て、若葉から三名の先輩の方々が八段位に昇段されました。その中の最高齢者、宮田花風様は90才にして、まるでお雛様のようなお方です。その穏やかなお人柄は、教室にお出でになるだけでも心が和みます。しかも花風様の雅号の如く、争わず、又力めず、自ら百花の魁として、凜とされたお姿は、若葉支部の誇りでございます。

千葉岳関先生のご自慢の門人で、独吟されると、「この声が90才の声ですよ！一寸調子が外れても必ず元に戻る巧妙さよ」と、ユーモラスに目を細め、慈しみつつの講評です。

現在若葉支部は男性お一人、女性13人の平均年齢が79才になりました。それぞれに年輪を重ねた私共をお導き下さいます千葉先生、そして、土井支部長様に感謝申しつつ、元気に仲良く、楽しく吟の道を歩み続けます。若葉支部をよろしくお願い申しあげます。

初 鱈

鎌倉を生きて出けむ初鱈 松尾芭蕉

昔、江戸っ子はことのほか初鱈を好んだ。若葉が芽吹き始めると黒潮に乗って小田原、鎌倉あたりまで近づいてくる鱈を、一日でも早く口にされるのが江戸っ子の自慢だった。

芭蕉の句は、鎌倉を出て素早く江戸に送られたことを詠んでいる。一時期、鎌倉街道は初鱈街道とも呼ばれたという。素堂の「目に青葉山ほととぎす初鱈」という有名な句もあり、初鱈は初夏のさわやかな心地よい気分をかきたてる。季節感の薄れた現代でも、やはり初物は嬉しい。(野本二士夫の健康歳時記より)

(退 会)

- 71 板橋雅岳 (勲・D) 72 高橋桜岳 (死)(銀詠)
- 151 武井桃風 (死)(松 和) 235 長 武風 (逗子A)
- 239 諸橋公風 (逗子A) 324 原 湘山 (唐木山)

西風の好天の森戸の海辺に立つと右沖に鎌倉の七里が浜、江ノ島、その背景に箱根の連山、そして中央に富士、左背景に伊豆の連山、伊豆の大島も望め、中央手前の名島の赤い鳥居と白い裕次郎灯台を望む風景はまさに絶景。

